



The letter of
Shinseisakuza

kunlapopolo・・・人々の中で人々と共に・・・

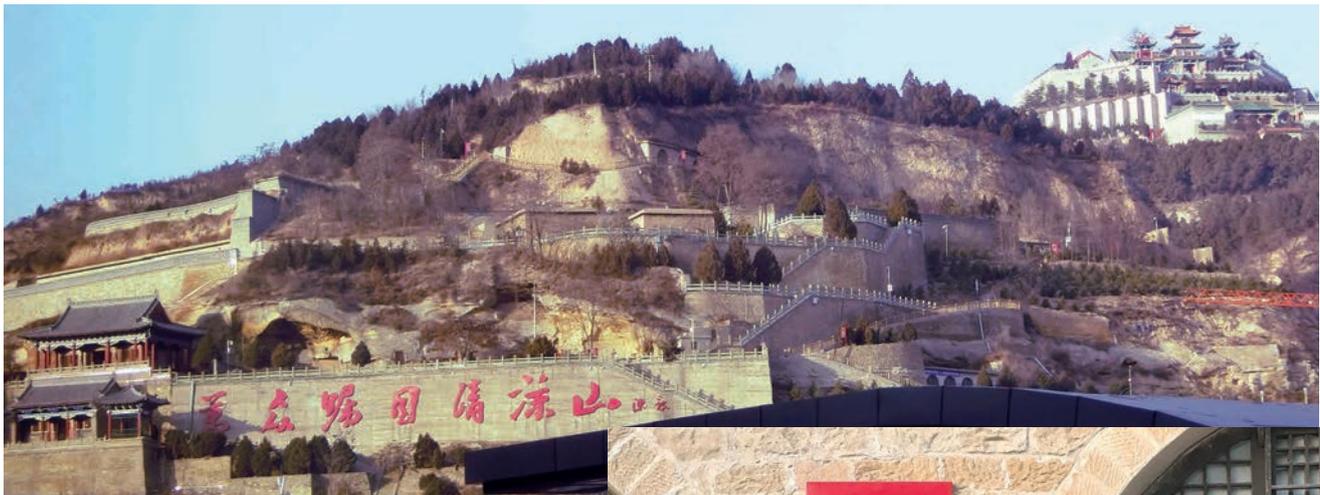


新制作座だより

vol.12

2017 Early SPRING

<http://www.shinseisakuza.com>



2016年12月14日 中国 延安の町



楊家嶺(ヨウカレイ)にて

「立春のご挨拶」

皆様には、穏やかに立春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

皆

昨年中の、皆様からいただいた深い友情にこの場をお借りして心より御礼を申し上げます。

さて、今号の新制作座だよりは年末の訪中のご報告をいたしたいと思いますが、その前段に、中国と新制作座、その友情の物語をお聞きください。

新制作座と中国

第

二次世界大戦終結よりまだ間もない1957年、中国と日本の間には、冷たい氷の扉が固く閉ざされていた時代。処

女作「泥かぶら」発表の後、次々と戯曲を書き上げ、大衆の中で大衆と共に芸術の創造を始めた真山美保のもとに、中華人民共和国からの招待状が届いた。

日本新劇代表団の一人として訪中した1ヶ月半に及ぶ旅程の最後に、周恩来首相と親しくお話をする機会を得た。その日の感動が、劇団創立7年目のまだ若かった真山美保の人生を決定付けることになった。

文革後の1977年そして1996年の新制作座フェスティバル中国公演の他、京劇「坂本龍馬」協力訪中団など、両国の間を行き交う平和のつばめとなつて新制作座は飛び続けた。

2006年3月12日 真山美保永眠。毎年恒例だった中国大使館の文化部の友人たちとの浅草の「望年会」も思い出になり、新制作座が続くのか？ どう進むのか？ 苦闘の日々。気がつ

けば10年、時代は大きく変わって
いきました。中国人観光客の「爆
買い」のニュース。反日デモや領土
問題。つばめ達は今どこに？

この度、中国对外文化交流協会
のお招きを頂き、劇団の若手を中
心に6名で、2016年12月10日
〜17日、北京・延安へ友好訪問の旅
へ出発しました。今号と次回号で、
その旅のご報告をいたします。

NPO法人劇団新制作座
眞山蘭里・小津和知穂

「中国訪問の記」

延安再び

— 延安の町と図書贈呈式 —

39 年ぶりに降り立った延安
は、見違えるほどの発展を
見せていた。

マイクロバスから見ると延安の町
は、新しい18〜19階あるビルと山
沿いに見える昔ながらの窑洞*の
コントラストが印象的だった。延安
市の文化局の方がご案内くださっ
た中で特に感動を覚えたのは、山
を削って作っていたニュータウン、
その規模人口30万の都市である。

歓送の晩餐には、延安市文化局
の聞芳副局長（詩人）も出席され

中国訪問 日程表 2016年12月

東京から北京へ	10日	北京到着 ↓ [中国对外文化交流協会] 晩餐会 張 愛平 (ちやう あいへい) 先生出席
北京	11日	[中国人民抗日戦争記念館] 見学 ↓ [故宫博物院] 見学 ↓ [国家大劇院] 舞台鑑賞
	12日	元文化部 劉 徳有 (りゅう とくゆう) 副 部長に表敬訪問 ↓ [中国人民対外友好協会] 表敬訪問 ↓ 王府井 (ワンフーチン)
	13日	中国の友人とお茶会 ↓ [北京舞踊学院] 訪問 ↓ 于 黛琴 (う たいきん) 先生と晩餐
北京から延安へ	14日	[宝塔山] 見学 ↓ [楊家嶺 (ヨウカレイ)] 見学 ↓ 4D 映画「長江」を觀賞
延安	15日	[延川県梁家河村] 見学 ↓ [延安の都市] 見学 ↓ [延安革命記念館] 見学 ↓ 延安市文化局副局長と会食
	16日	[絵本 泥かぶら] [眞山美保 詩集] 贈呈式 [延安中山図書館] 見学 ↓ [魯迅芸術学院旧址] 見学 ↓ 北京へ
北京	17日	北京出発 東京帰国

て、楽しいひと時をもったが、その
席で「絵本泥かぶら」と「眞山美保
詩集」を図書館にとお渡しする
と、「明日贈呈式を図書館でやりま
しょう。報道機関も呼びなさい」
と聞芳女史の指示がとんだ。

明くる朝、私たちが延安中山図
書館を訪問すると、シヨッキングピ
ンクのスーツの大柄な館長 高巧玲
女史が待ち受けていた。そのバイ
タリティー溢れる案内で足早に
図書館の彼方此方を拝見し、大会
議室に入ると「熱烈歓迎日本新制
作座」の看板。舞台上には贈呈式
の準備が整えられ、図書館の幹部
が全て揃われ、カメラマンの姿も
あった。仕事の速さに驚くとと
もに、延安に残る革命精神と人々

の心の熱さ
を感じずに
はいられな
かった。

偉大な中
国革命の聖
地というだ
けでなく、前
進する中国
を延安で目
の当たりに

出来たこと、延安の図書館に「絵本
泥かぶら」と「眞山美保詩集」が長
く所蔵されることになったこと、こ
の訪中の大きな喜びとなった。

帰国後、美保先生の仏前に延安
中山図書館の受領証を供え、ご報
告したが、先生のお写真を見つめ



昔ながらの窑洞 (ヤオトン)



中山図書館にて「絵本 泥かぶら」「眞山美保詩集」贈呈式

ながら中国とのご縁、交流の歴史
がまた積み重なったことを深く
かみ締めたのだった。

(記・眞山蘭里)

*窑洞 (ヤオトン) : 切り立った壁面に掘って作
る横穴式住居。黄土層の崩れにくい土質を利用し、
夏涼しく冬暖かい。

早春賦

真山美保詩

空は春色
水あそび
日が沈むまで
ときの色
悲しみも消え
痛みもすう
全て 遥かに
遠のきて
ひろそりと 楽し
浅き春

昭和六十一年一月

(原 泰賢・書)

十七才の時を思いました
三十才の頃を考えました
卒業のその時です

やるせなく哀しく
想いははるかはるか...

あなた方の青春を重ねて
深く味わっています

よい仕事をし
友には優しく
人々には愛を

若き弟子達へ

昭和六十一年一月十五日

「泥かぶら」

大阪公演御礼 アンコール公演決定!!

大阪では12年ぶりという「泥かぶら」の一般公演が昨年11月に催され、多くの方々に足を

運んでいただきました。心より感謝御礼を申し上げます。

関西出身の私にとっても、やはり格別の思い深き公演でありました。「泥かぶら：関西で...やりたいなあ」が数年来の口癖。周りの友人たちも「関西まだか〜!」



開演前「今日も良い舞台を創りましょう! ファイト オー!!」

例えば、ハイペースで公演を重ね、東京・大阪の大都市公演が先輩方によって創られていた頃、若手の私は興行経営の労苦など知らず、大阪でやればすぐに満席になるだろう位に考えていた。まったく恥ずかしい話である。

さて、「泥かぶら」の作品としてのパワーを私は一切疑っていない。生身の演者が怠りによって観客を裏切ることにはあるかも知れない。集客の難しさや知恵を要する面も多々あるだろうが、私は個人的にもこの作品を再び関西に根付かせたいと思っている。大阪終演後、あんなに喜んで興奮気味に感想を口にくれた友人知人たちが言った一言「良い作品な

んやから関西でもっとやればええのに!」

そんなことをあれやこれや思い巡らしていると、朗報が飛びこんできました。なんと1年を待たずに「泥かぶら」大阪公演(一般公演)が決定!!

【大阪アンコール公演】

日時：2017年5月7日(日)

開演14時

場所：立正佼成会大阪普門館ホール
*観劇料未定(2月1日現在)

皆様にはぜひご来場と宣伝のほど、よろしくお願い申し上げます。追記 一步一步、泥かぶらの歩みと共に (記：近衛謙)

「星槎高尾キャンパス」

八王子学習センター 教諭

佐藤眞珠華先生より

『中国からの留学生を迎えて』

昨年9月24日からの約3か月間、星槎高尾キャンパスに中国からの留学生がやってきました。「日本語のシャワーを浴びせる」という事を目的に、基本は日本語での交流。大学の先生方との勉強、



中国からの4名の留学生 日本文化体験を新制作座が
お手伝い

私たちとの日常で日々日本文化と日本語の勉強を行っていました。彼らの来日で、八王子学習センターの生徒たちにも学びが。私の担当する国際交流ゼミで「中国ってどんな国？」と、調べ学習を行いました。中国は地理的に日本に近い国にも関わらず知らない事がたくさんあり、多くの発見と学びがありました。

普段、私たちはメディアを通して世界を知ることができます。しかし、その情報だけに頼り、その国や国の人々について考えてしまい誤解が生じることもあります。実際に関わり、自ら学ぶことが大切だと生徒たちも感じる事のできた良い機会となりました。「メディア」と「実際」のズレを無くすこと

が、星槎の目指す共生社会の実現に一歩二歩近づいていくのだと思います。この留学で「はい、終わり」ではなく、これからも「繋がり」を大切に、たくさんの人々と交流し、世界中に仲間を作っていきたいと思っています。

「朗読 泥かぶら・八郎」

「朗読劇にしてよかつた」

— 広島県立東高等学校 —

成29年度に私の地元である島根県美郷町での公演が決まり、いくつか公演を重ねるため、

広島県の高校に電話かけをしました。その中で「泥かぶら」の物語に興味を持っていただいたのが東高等学校の大宮先生でした。「うちの学校は定時制なのでこの物語は生徒の心に響くものがあると思います」予算の都合で朗読劇をお勧めし、いくつもの会議を乗り越え、上演させていただきましたことが決まりました。その頃、大阪公演を控えていたこともあり先輩方は多忙で、以前は先輩と一緒に契約書を交わしましたが今回は一人で全て行いました。

不安いっぱいでも迎えた本番当日：先輩方に助けられながら無事に公演が終わりました。終演後、大宮先生とお話をしたところ「初めて朗読劇にしたので生徒がちゃんと観るか不安で仕方が無かつたんですけど、プロの読み聞かせはやっぱすごいですね。朗読劇にしてよかつたです」「本当ですか。有難うございます。実は私も朗読劇の担当を全て行ったのは初めてで不安でした。失礼な事がございますたらお許しく下さい」「あれ？ お互い様ですね」と出合いは不安顔、別れは笑顔で広島を後にしました。一期一会、公演一つ一つ大切にしていこうと思った朗読劇でした。（記・福島里佳）



「朗読 泥かぶら」

「泥かぶら」 稲むらの火の里で

— 和歌山県広川町公演 —

去る12月2日は「稲むらの火」で良く知られている和歌山

県広川町での公演でした。公演を実現してくださった松林教育長さんに初めてお目にかかったのは数年前、まだ耐久中学校の校長先生在職時でした。「泥かぶら」の絵本を読まれた先生は物語に感動し、演劇「泥かぶら」を子ども達にぜひ観せてやりたいと劇団本部にお電話をくださいました。

その後、制作担当の小津和と一緒に松林校長先生を訪ねましたがその時は公演を実現することが出



和歌山県広川町公演前の夕食会

来ず、心に残りながらも何年か過ぎていました。昨年の春、町の教育長に就任された松林さんから公演依頼の連絡があり実現しました。

当日は、町民体育館に町の小学校の生徒さんと町民の方々と広い体育館もいっぱい。とても暖かです。優しい感じの客席を創ってくださった。村の童役で小学校の生徒さんも出演、良い思い出

行くぞ東北!



春に向かつて・・・

尾花沢アンコール公演

昨年10月1日、山形県尾花沢市の小学生を対象に「泥かぶら」を上演した折、宿泊先の花笠高原荘のおもてなしと、郷土料理の美味しさに感激して公演中のお弁当を注文しました。午前の部の3幕の中頃にお弁当が届き、「ちよつと観てもいいだべか〜」とTさん、会場に駆け込んで行きました。ラストの10分を観たTさんは、「私ら



尾花沢の風景

になったことでしょう。公演終了後は翌日の「眞山青果学術シンポジウム」に参加するため急いで帰京しましたが、時間があれば皆さんとゆっくりお話がしたくなるほど心に残る公演でした。

(記・山形 久人)

*稲むらの火・・・安政の南海地震で津波が来る事を予知し、知らせるために、収穫したばかりの自分の稲むらに火をかけ村人たちを高台に避難させた瀧口梧陵翁の実話です。

も本物のお芝居が観たい」と、熱く語り友人を誘い「泥かぶら」を東京まで観に来てくれました。「やつぱり、おばねでさんなぬ!!」雪深き尾

花沢の地でTさんを中心に実行委員会が作られ、5月21日「泥かぶら」尾花沢アンコール公演をめざして動き始めています。鬼ごっこをして駆け回る子ども達と出合ったおばねの町で、ふと立ち止まり、堪らない懐かしさに泣けてきた私は思いました。日本の良き魂はここにある。

(記・小津和知穂)

「イベント」

「眞山青果学術シンポジウム」と歌舞伎座での興行

神 田の一橋講堂で昨年12月に眞山青果学術シンポジウム

「眞山青果の魅力ー近世と近代をつなぐ存在」が開催されました。

眞山青果記念館の蔵書が星

グループ(学校法人国際学園)で完全保管されるのを機に企画されたもので、最初の登壇者は主催者を代表して井上一理事長、「皆さん今日は・・・」と親しい呼び掛けで幕を開け、松竹株式会社 安孫子 正副会長のご挨拶、そして青果研究の第一人者といわれる先生方が研究成果を発表され、大正、昭和にかけて、劇作・小説・西鶴研究など多岐に涉って活躍した眞山青果の偉業が時代を超えて現代に生きる我々の心を捉えて放さないその魅力を、各分野から解き明かされました。客席の聴衆も熱心に聞き入っておりました。

最後に劇団の眞山蘭里代表が演劇人の立場から先生方にお礼を述べて会を締め括り、3時間に渉る内容の濃いシンポジウムで



「眞山青果学術シンポジウム」チラシ

た。関連企画の国文学研究資料館主催「眞山青果旧蔵資料展」も評判が良かったようです。

また、この企画に呼応するように歌舞伎座では昨年11月顔見世興行に「お浜御殿綱豊郷」、壽初春興行に「將軍江戸を去る」、陽春三月興行には「明君行状記」と、青果劇が相次いで上演されて現代に雄飛する眞山青果を印象づけました。

(記・込山慶二郎)

「泥かぶら」

90年の歴史ある学苑

― 明星中学校 高等学校 ―

昨 年の大千秋楽は12月21日、東京都府中市にある明星中

学校 高等学校での2回の公演でした。前日に仕込みに何うと校庭の見事な二本の松の大木が私たちを出迎えてくれ、大正時代より90年以上の歴史を持つ学校なの



明星中学校 高等学校での千秋楽

だと実感しました。会場は創立者である児玉九十先生を記念した1200名収容のりっぱな講堂。しかし私たちが困ったのは緞帳がないことでした。平成20年に完成した新しい講堂で、最初から幕が開いたままというのが今のはやりなのかもしれません。新制作座は創立以来、緞帳ありの芝居が常でありましたので、劇場で緞帳柱を立て、緞帳と中幕を吊ることでテーマの仕込みになりました。演出部の力を結集し緞帳付きの立派な劇場となり幕を開ける事ができました。

舞台は、若いメンバーが公演直前の8日間中国に招かれ、吸収した諸々の良い刺激が舞台にも表れたのではないかと思います。また校風の和の精神と共に、生徒たちと舞台が一つになったと感じました。準備の段階からいろいろとお

当にありがとうございました。公演後に届きましたメールをご紹介します。(記・木村幸子)

— 観客の声



明星中学校・高等学校
中三川幸也先生より

劇団新制作座一同様

昨日はお疲れ様でした。生徒、教職員、保護者一同みな、その演技の見事さに絶賛しております。

最近の生徒は演劇を鑑賞するという機会がほとんどなく、何とかその機会を作りたいと思っていました。今年、芸術鑑賞の担当になったのを機にこの思いが実現できてとても満足しております。初めて芸術鑑賞担当となったので、至らない点が多々あったと思いますが、おかげさまでもちまして大成功となりました。

中には「お母さんが『見たことがある』と言っていた」という生徒もいて、改めて「泥かぶら」の認知度が行き渡っていることを認識しました。そのほかにも中高共に女子生徒から「泥かぶらがかわいかった」という声も聞かれています。

教員の方からは、脚本がしっかりして見て見ごたえのある内容だったとの声も出ています。ただ、中学の教

員の方から、内容・演技そのものはすばらしかったけれど、出演した生徒の紹介をアンコールの中でして欲しかった、という声が複数あがっております。この点以外は、絶賛の嵐でした。

また、頂いた色紙は、校長室に飾る事になりました。では、本当にありがとうございました。(文中一部割愛)



Illustration: Chiho Koduwa

— 劇団犬「千代丸」のご紹介 —
「僕は犬でパパとママは人間って
どういうこと？何がちがうの？」

(聞き書き:江崎 はんな)



パパ(写真上)とママ(写真下)と「ちよまさん」

「ピンポン」「ハイ」答えるのはママ、出迎えるのは僕。初めての人は驚くことが多い。「僕ここの子です」。劇団の倉庫で生まれた時、逆まつ毛が原因で目が開かなかった僕は、他の兄弟のように柴犬専門店に引き取られることなく残されて、毛抜きで治療。まあ～痛いなの、やっと目が開きました。ある日、いつものように遊んでママの顔をペロペロ舐めるとしょっぱくて、びっくりしていると…抱きしめてくれた。その頃、美保先生の具合が悪く、後につらい別れもあった。だからいつも側にいる、そう決めたんだ。寂しいのは、公演で劇団員がいない時。でも必ず「千代丸ただいま」って声が聞える日が来るから留守番をして我慢出来るんだ。

それと、一つだけ皆さんにお願いがあるの。僕とおしゃべりしてくれる人が少ないこと。僕の発音が少しはつきりしないことは認めるけど、話しているうちに理解し合えると思うよ。そうしたらもっともっと良い友だちになれると思うんだ。どうぞよろしくね。

なごみの
の
コラム

2017年 新制作座公演&イベントスケジュール

● 演劇「泥かぶら」

- 2月 17日 「泥かぶら」新キャスト・スタッフオーディション
～19日 会場:新制作座
- 4月 19日 星槎国際高等学校 立川GC・八王子GC
新入生歓迎公演 会場:星槎高尾ホール
- 22日 公開舞台稽古 会場:星槎高尾ホール*
- 5月 5日 広島県福山市公演
会場:広島県民文化センターふくやま
- 7日 大阪アンコール公演 一般公演
会場:大阪普門館
- 8・9日 大阪アンコール公演 団体鑑賞会
会場:大阪普門館
- 11日 新潟県五泉市公演 芸術鑑賞会
会場:新潟県五泉市立五泉中学校
- 21日 山形県尾花沢市アンコール公演
実行委員会主催公演 会場:サルナート
- 9月 26日 群馬県 伊勢崎市立四ツ葉学園 芸術鑑賞会
会場:伊勢崎市文化会館
- 10月
11～13日 岡山県津山市公演 高校芸術鑑賞会
- 28日 神奈川県箱根町公演 会場:レイクアリーナ箱根*
- 31日～ 九州公演
- 11月 ～8日 九州公演
- 10～12日 広島県～島根県公演
- 12月 12日 高校芸術鑑賞会 会場:銀座プロッサム

● ドラマティックリーディング「泥かぶら」「八郎」

- 6月 10日 ドラマティックリーディング「泥かぶら」「八郎」
or 11日 会場:星槎高尾ホール*

(*)印:企画検討中

● イベント

- 1月 21日 星槎高尾キャンパス成人式
(舞台設営:新制作座、衣装・着付け:朱鷺-toki-)
- 2月 4日 ブータンRTC日本文化体験授業
(衣装・着付け:朱鷺-toki-)
- 22・23日 新制作座 慰安旅行
- 3月 12日 劇団慰霊祭 宝泉寺
- 4月 8日 お花見&ひな祭り
- 7月 2日 サマーイベント
- 8日 ゆかたざらい・日舞発表会
- 12月 23日 新制作座クリスマスパーティ

【募集】演劇「泥かぶら」 準主役キャスト・スタッフ募集

新制作座では、演劇「泥かぶら」準主役キャスト・スタッフを募集いたします。通過された方は、新制作座の「座友」として全国巡演の舞台出演をお願いいたします(1年契約)。

出演料あり、チケットノルマ無し、交通費支給。座友から、準劇団員・劇団員への道も開かれています。

研究生も随時募集しております。

詳しくは、新制作座Webサイトをのぞってください。

<http://www.shinseisakuza.com>



日本舞踊
稽古風景



高尾ホールでの
稽古風景

—— * 同封の郵便振替の用紙について * ——

賛助会費のお願い

NPO法人 劇団 新制作座の賛助会費の振込用紙を同封させていただきました。2017年も引き続き、ご理解とご支援を賜れますようお願い申し上げます。

編集後記

暦では立春。土の下や木々の芽は冬の間にエネルギーを蓄え、春の準備で密かに動き始めているのだろう。

しかし人間にとって、ここ高尾はまだまだ寒い・・・。

新制作座には、熱いエネルギーを持った人々が集まるように思う。その力はどこから来るのだろう。

ふと一昨年100歳を迎えた伯父のことを思い出す。代々続く窯元を営み、陶芸家でもある伯父が、念願のギャラリーをオープンしたというので訪ねると、年齢を感じさせないほどエネルギーに溢れ、生涯かけて創りあげ夢を叶えた自信に満ちていた。何より驚いたのは、ギャラリーの近くで土地を借り、畑仕事をしていること。芸術作品を生み出すこともすばらしいけれど、日々のものづくりや創造性、“まだまだ満足がいかない”という探究心が大きな生きる力になるのだと、深く感じずにはいられない。 (制作担当:松原 ふみこ)